

(2026年3月3日発行)

日本口腔顔面痛学会理事長 福田謙一

広報委員会担当理事 山崎英子/委員長 池田浩子

今回は、2025年11月22・23日にタイで開催された「第23回アジア口腔顔面痛・顎関節症学会学術大会」および「第1回タイ咬合・口腔顔面痛学会学術大会」について徳島大学顎機能咬合再建学分野の生田目大介先生に報告していただきます。

## 「第23回アジア口腔顔面痛・顎関節症学会学術大会」および

## 「第1回タイ咬合・口腔顔面痛学会学術大会」参加報告

徳島大学 顎機能咬合再建学分野 生田目大介

2025年11月22, 23日に、タイの Chulalongkorn University において、200名近くの先生方が参加しアジア口腔顔面痛・顎関節症学会の第23回学術大会 (The 23rd Scientific Meeting of the Asian Academy of Orofacial Pain and Temporomandibular Disorders, AAOT) およびタイ咬合・口腔顔面痛学会の第1回学術大会 (The inaugural 1st Scientific Meeting of the Thai Academy of Occlusion and Orofacial Pain, TAOOP) が開催された。11月のバンコクは、雨季が終わり、乾季が始まるため、湿度が低く晴天が続く過ごしやすい気候であると聞いていた。実際に、バンコクの Suvarnabhumi 国際空港へ到着すると、出発前の関西国際空港での12月の寒さとは異なりじんわりと暑く、しかし乾燥した空気を感じた。本学会は AAOT と TAOOP の初の合同学術大会であり、AAOT President である Wen-Liang Lo 先生と TAOOP President である Somsak Mitirattanakul 先生をはじめとした学術大会運営スタッフの方々のご尽力によって、つつがなく学術大会が開催された。

1日目は、最初に Keynote Lecture と題して Glenn Clark 先生 (USC School of Dentistry) が“AI Agents in Orofacial Pain and TMD: Transforming Advanced Education”というタイトルでご講演された。オンライン歯科教育において課題とされてきた非同期学習、臨床技能教育、個別評価について、①入学希望者対応 AI、②即時フィードバックと個別評価を行う教育支援 AI、③臨床推論を練習可能なバーチャル患者という3つの AI ソリューションを提案された。さらに、Retrieval Augmented Generation (RAG)を用いた技術基盤やコスト面の検討を示され、AI が臨床能力評価と歯科教育の質、アクセス性、個別化を大きく向上させると結論づけていた。2人目には、Antonio Romero 先生 (University of Valencia) がバイオマーカーと AI を用いた口腔顔面痛および顎関節症 (TMD) 患者のプロファイリングについてご講演された。3人目は、Joao Ferreira 先生 (Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University) が光生体調節 (PBM) 療法の TMD における咀嚼筋痛障害に対する非侵襲的治療および創薬モデルへの応用についてご講演された。ランチタイムをはさみ、4人目に再度 Antonio Romero 先生がご登壇され、閉塞性睡眠時無呼吸症候群 (OSA) をフェノタイプとエンドタイプで層別化することで実現しうる歯科睡眠医療における多職種連携治療についてご講演された。



Glenn Clark 先生のご講演

つづいて、Country Representative Lecture として各国代表の6名の先生方がご登壇された。1人目の演者は

日本代表として、飯田崇先生（日本大学松戸歯学部）が“Management of Bruxism Considering Central Nervous System”というタイトルでご講演された。ブラキシズムを単に抑制すべき病的行動としてではなく中枢神経系との関係から再評価し、顎運動の生理的役割を踏まえた新しいマネジメントの必要性を提案された。各国の先生方も大変興味深い眼差しで講演を聞き入っていた。その後は、Ji-Hee Jang 先生（Seoul National University Dental Hospital, South Korea）が歯科睡眠医療と口腔顔面痛診療を統合したスクリーニングや学際的アプローチの重要性、Chuan Hang Yu 先生（Chung Shan Medical University Hospital, Taiwan）が針治療を口腔顔面痛や TMD に対する補助療法として歯科臨床へ統合される意義、Pinta Marito 先生（Universitas Indonesia, Indonesia）が舌筋力評価と口腔筋機能療法を含む包括的な TMD 管理の重要性、Supanigar Ruangsri 先生



飯田 崇先生  
大変興味深いご講演でした

（Khon Kaen University, Thailand）がデジタル下顎前方移動装置（KKU-MAD）の軽～中等度 OSA 患者に対する安全性と臨床的有効性、Annie Lantin 先生（Lantin Dental Clinic, Philippines）がフィリピン・マニラの TOPP Orofacial Pain Clinic における新患を対象とした Diagnostic Criteria for TMD (DC/TMD) を用いた TMD 有病率と病型分布の調査結果についてそれぞれご講演された。

各講演の間にはポスターディスカッションが行われ、基礎・臨床研究、症例報告を合わせ 66 演題が集まり、英語での活発な質疑応答・意見交換が行われた。



ポスターディスカッションの様子  
活発な議論が交わされていた

1 日目の終了後、会場近くのホテルにて Reception Dinner が開催された。会場にはビールやワインなどの銘酒、豪華絢爛な料理の数々が用意されていた。各テーブル美味しい食事に舌鼓を打ちながら、会話に花を咲かせていた。恒例？の各国代表によるカラオケ披露が今回も行われ、日本チームはこちらも恒例の故・坂本九氏の「上を向いて歩こう SUKIYAKI」を合唱し、会場を大いに盛り上げた。



Reception Dinner の様子

2 日目は、最初に Peter Svensson 先生（National University of Singapore）が“Bruxism and Pain - A Complex Relationship”というタイトルでご講演された。ブラキシズムと疼痛の関係は単純ではなく、生理的もしくは病的かを含め多面的に評価すべきであり、歯科睡眠医療と口腔顔面痛の視点から臨床応用を考察する必要があると結論づけていた。つづいて、1 日目に続いて Glenn Clark 先生がご登壇された。顎関節円板転位が頻発する原因を解析し、外側側副靭帯が顎関節構造の最も脆弱な部位であると知見を得た。そして、それが TMD 治療の理解と戦略に重要であると結論づけていた。最後は、授賞式および閉会式が執り行われ、栄えあるポスター賞第 2 位に、Fangyuan Zhang 先生（徳島大学）が受賞された。



ポスター賞授賞式  
Fangyuan 先生おめでとうございます

私自身、大学院生時代はコロナ禍と重なってしまったことで海外学会への参加が叶わず、人生初の海外学会参加となった。良い緊張感を持ちながら学会参加することができ、大変貴重な経験をさせていただいた。また、参加者の先生方全員が様々な場所でのディスカッションを通じ、口腔顔面痛および顎関節症を学問として真摯に追求する姿に、その難しさと素晴らしさを肌で感じることの出来た大変有意義な2日間であった。国籍や文化の違いはあれ同じ専門分野の先生方と親睦を深められることが、海外学会の代え難い魅力であると確信している。若手の先生方はこの魅力を感じ取るために尻込みせずに海外学会へ参加してほしいと思う。



各国参加者での集合写真

---

#### 【生田目大介先生のプロフィール】

専門は補綴学であり、初診患者や紹介患者の診断、さらに口腔顔面痛・顎関節症部門においてより専門性の高い歯科診療も行っている。また、学生教育は助教としてクラウドブリッジ補綴学について国家試験を意識したものを行っている。さらに、診療の傍ら咀嚼筋痛受容機構についての基礎研究を行っている。



幼稚園の娘の育児に日々悪戦苦闘しながら頑張っている。

#### 【略歴】

－2021年 日本大学大学院歯学研究科、博士（歯学）  
2021年－ 徳島大学大学院医歯薬学研究部（歯学域）、助教  
現在に至る

#### 【所属学会等】

日本補綴歯科学会  
日本口腔顔面痛学会  
日本顎関節学会

---

日本口腔顔面痛学会 News Letter へのお問い合わせは

「日本口腔顔面痛学会事務局」まで

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社学会事務センター内

TEL: 03-5620-1953, FAX: 03-5620-1960 E-mail: jsop-service@onebridge.co.jp